

総合型選抜・学校推薦型選抜入試対策講演会あいさつ

令和8年7月19日(日)

皆さん、こんにちは。山梨予備校校長の斉木です。よろしくお願いいたしますします。皆様方には日頃より山梨予備校における学習指導に対し、深いご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。また本日は、たいへんな暑さの中ですが、お忙しいところをご参加いただき、ありがとうございます。

山梨予備校では補講も含め前期授業が昨日終わり、今週金曜日から夏期講習会に入ります。10年以上も前のことですが、「何とか会」というアルファベットの最後の文字をつけたある受験関連の会社が新聞広告に「明日からやろうと40回言くと夏休みは終わります」という一文を、大きな文字で載せていました。

皮肉っぽい言い回して何だかなと思いましたが、いかにもありそうなことです。明日になって、さあ今日はやろうと思っても、あまり勉強してこなかったきのうまでのことを悔やむ気持ちが妨げになると、前に進めなくなります。さあやろうと思ったなら、その意欲を上手にコントロールしたいものです。

人生には「今」という時間しかありません。思い立った時が人生の始まりです。今からやって間に合うのか…、それは未来の自分が考えます。未来への不安や心配は、今より一回り成長した未来の自分に委ねましょう。さあやろう、という気持ちがあるのなら、今の自分はさっと机に向かうだけです。

大学入試は入学生を定員以内に収めるために行われますが、大学の本来の願いは、専門的に学ぶ上で必要な学力を見つけて入学してほしい、ということだと思います。受験生には、大学で専門的に学ぶ上で必要な学力つまり基礎学力とは何かについて自分の考えを持ってほしいと思います。

受験勉強で苦勞して覚えても、具体的な内容は受験が過ぎれば忘れてしまうかもしれません。しかし一度馴染んだ世界は、私たちの内面の世界の広がりとして残ります。文学作品に共感したり、数学の確率の問題で考えられる場合をすべて漏れなく正確に数え上げる執念深さに感動したり…

この共感や感動が重要です。受験勉強では、時に立ち止まるゆとりを持ち、心の動きを十分味わってほしいと思います。共感や感動とともに私たちの内面に広がる世界、これが基礎学力であると私は考えます。内面に広い世界をもつことが、大学での学びを支え、卒業後も生きていく力となります。

大学入試の選抜方式や日程は、毎年大なり小なりの変更があり、受験に向けた準備において、迷わず目標に向けてまっしぐらに頑張る、という形がとりにくくなっています。この方式が自分に合っているのか、もしだめだったらそれから他の方式にかえて間に合うのか、不安は尽きないと思います。

どの大学・学部を志望するか、どの方式で挑戦するか、これは一つの決断です。決断は自分で下すものです。保護者や学校の先生に勧められた方向と同じであっても、最後に決断するのは自分です。自分で決断して、その決断の結果は未来の自分に委ねる。それが自分の人生ということです。

入試に限らず、人生には大きな分かれ道がいくつかあります。どの道を進んでも、時間が経ち、後から振り返ると、まっすぐな一本の道になっていると思います。自分が下した決断が、人生の必然になるということです。

未来の私に向け覚悟をもって決断した今の私は、選んだ道を懸命に生きていくしかないと思います。自分はこれで行く、と覚悟を決めたら、先回りして心配したりせず、どんな状況でも踏ん張れる自分の力を信じてください。自分の本当の力、底力は、自分にもわからないのです。

結びに、皆さんの前途に幸多からんことをお祈り申し上げ、そして自分の土壇場の力は誰にもわからないのですよ…と、くどいですが、もう一度、念を押し、あいさつを終わります。本日はよろしくお願いいたします。